



岡山大学 ナノバイオ標的医療の 融合的創出拠点の形成

ICONT (Innovation Center Okayama for Nanobio-targeted Therapy)

岡
大
医学・医療の最前線

前立腺がんのPSA検診

32



公文 裕巳 (岡山大学ナノバイオ標的医療イノベーションセンター長 泌尿器科 泌尿器学 泌尿器学 泌尿器学)

この連載は、岡山大学の「ナノバイオ標的医療」に関する研究の展開を中心に新しい医療の創造について解説しています。標的医療を含めた21世紀医療は、一人ひとりの個性やニーズに合わせて、QOL(生活の質)を重視する「人に優しい医療の実現」という方向性を目指しています。そのような観点から、私の専門領域である泌尿器科医療の最近の話題について前回からお話ししています。

今回は、本年4月の第97回日本泌尿器科学会総会・岡山で検討された主要なテーマのなかから、「前立腺がんの検診のあり方」についてお話しします。ご承知のように、前立腺がんの罹患率は年々増加しており、2020年には7万8468人と肺がんに次いで日本人男性のがんの2番目になると予測されています。また、前立腺がんによる推定死亡率は20年には00年の2.8倍

になると予測されています。06年に制定された「がん対策基本法」において、日本におけるがんの死亡率を10年以内に20%低下させることが目標とされています。日本泌尿器科学会としてこの目標を達成するために最も効果が期待でき、しかも、直ちに実施できる対策としてPSA(前立腺特異抗原)検診のさらなる普及を推奨しています。

一方、厚生労働省の「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」班が、07年の夏、PSA検診は、「早期診断には有用であるが、死亡率を減少させる効果は証明されていないため、公的な費用で行う住民検診として実施することとは勧められない」との考え方を公表し、一部に混乱が生じています。

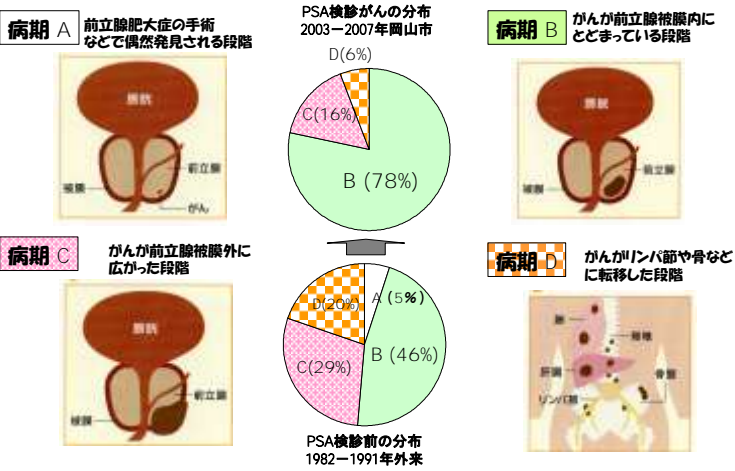
この考え方は、死亡率という観点からだけ検診の意義付けをする前時代的発想に基づくものであり、一人ひとりの個性やニーズに合わせて、QOL(生活の質)を重視する健康、医療、福祉を考えるべき21世紀の時代の発想とはかけ離れているものと言わざるを得ません。しかも、現実には死亡率を減少させる効果についての判断も時期尚早という結果となりました。

つまり、岡山での日本泌尿器科学会総会が開催される直前の09年3月に、『PSA検診を実施することによって前立腺がんの死亡率を20%低下させることが出来る』ことが、ヨーロッパの大規模かつ長期間にわたる研究で科学的に証明されました。本総会で改め「50歳以上の男性のPSA検診を推奨すること」になりました。

岡山市においては、03年より5年間、市の財政的支援を受けて基本健康検診の項目にPSA検診が追加され、50歳以上の男性を対象として実施されました。5年間に5万2926人がPSA検診を受け、その結果として456人(0.8%)の方に前立腺がんが発見されました。

注目すべきは、早期がんである病期Bで発見された割合が78%と多くの割合を占め、転移を有する進行がん(病期D)の方は6%と低率でした。前の10年間に岡山大

PSA検診の普及による前立腺がんの病期分布の変化



病期A 前立腺肥大症の手術などで偶然発見される段階

病期B がんが前立腺臓内にとどまっている段階

病期C がんが前立腺臓膜外に広がった段階

病期D がんがリンパ節や骨などに転移した段階

日本では、岡山市を含めて71%の市町村においてPSA検診が実施されています。残念ながら50歳以上の男性でPSA検診を1回でも受けたことのある方の割合は5.10%と推定され、米国に比べて大変低い受検率となっています。PSA検診が普及することにより、前立腺がんが早期の段階、つまり、適切な治療で根治可能な段階で発見されることとなり、死亡率の低下につながることを考えられます。

「がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究」班が、07年の夏、PSA検診は、「早期診断には有用であるが、死亡率を減少させる効果は証明されていないため、公的な費用で行う住民検診として実施することとは勧められない」との考え方を公表し、一部に混乱が生じています。

この考え方は、死亡率という観点からだけ検診の意義付けをする前時代的発想に基づくものであり、一人ひとりの個性やニーズに合わせて、QOL(生活の質)を重視する健康、医療、福祉を考えるべき21世紀の時代の発想とはかけ離れているものと言わざるを得ません。しかも、現実には死亡率を減少させる効果についての判断も時期尚早という結果となりました。

つまり、岡山での日本泌尿器科学会総会が開催される直前の09年3月に、『PSA検診を実施することによって前立腺がんの死亡率を20%低下させることが出来る』ことが、ヨーロッパの大規模かつ長期間にわたる研究で科学的に証明されました。本総会で改め「50歳以上の男性のPSA検診を推奨すること」になりました。

岡山市においては、03年より5年間、市の財政的支援を受けて基本健康検診の項目にPSA検診が追加され、50歳以上の男性を対象として実施されました。5年間に5万2926人がPSA検診を受け、その結果として456人(0.8%)の方に前立腺がんが発見されました。

注目すべきは、早期がんである病期Bで発見された割合が78%と多くの割合を占め、転移を有する進行がん(病期D)の方は6%と低率でした。前の10年間に岡山大